

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101917		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム		
所在地	〒020-0838 盛岡市津志田中央2-3-20		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットがつながっており、コミュニケーションや交流がしやすい環境となっている。両ユニットで互いに情報交換しながら業務に当たっている。コロナ禍以降それぞれの認知症の進行もあり介助量も増えてきており、かかりつけ医や訪問看護師に今まで以上に助言頂く等医療連携にも注力している。ご家族様ともコミュニケーションを密にし互いに情報共有するとともに身の回りのものを持参頂いたり、通院対応等様々なご協力をして頂いている。食事には中庭にある家庭菜園で採れた野菜も食材として使用する等季節の食材を取り入れながら色どり等も工夫し入居者の皆様に楽しんで頂けるよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニット事業所では、会社の理念である「尊厳」「共生・協働」「自己実現」の3本柱を基本とし、更にその理念を細分化し、利用者の「笑・和・輪・話・技」において太陽荘の花を咲かせることを目指して支援に努めている。マンションやアパートが多く隣接している地域ではあるが、町内会に加入し、町内会長には運営推進会議委員として、地域との繋がりを担っていただく等、地域との関係性が構築されている。玄関前の中庭に菜園を作り、利用者と職員が一緒に収穫を楽しみ、献立の一品として役立てたり、当番制で食後の片付けや食器拭き、洗濯物のたたみをするなど、利用者が参加出来る場を確保しながら利用者の貢献を引き出している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が日々の生活にめりはりをつけながら生き生きと生活できる様、荘内はもとより地域とのつながりも常に心掛けている。日々介護の理念を掲げ、朝礼にて唱和して業務の実践に心掛けている。	理念は、「快互の基本理念(3本柱)」「有限会社快互 理念」「都南太陽荘の理念」からなり、更に毎年度の基本方針が定められている。「有限会社快互 理念」は「笑・和・私・輪・話・技」の形で細分化されている。利用者が日々楽しく自分らしく過ごせるよう、職員は朝のミーティングで「快互の基本理念(3本柱)」を唱和すると共に、玄関にも掲示し、お互い確認しながら日々支援に努めている。	会社理念の3本柱を軸に、さらに細分化した理念があり、また事業所独自理念が立てられており、職員には理念の意義が伝わりにくいことが危惧される。事業所の理念が分かりやすいものとなるよう工夫する事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会への加入、広報紙の回覧にて情報発信に努めている。運営推進協議会には自治会長・民生委員・傾聴ボランティアの方々にも出席頂いている。今年度もできなかったが、地区の文化祭の見学や児童センターの子供達との交流も取り入れている。	自治会に加入し、年1回の総会にも参加している。“都南太陽荘通信”を発行し、事業所の情報発信に取り組んでいる。自治会長には緊急連絡網にも加わって頂くなど、地域との橋渡しとして協力をいただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナ対応で実施できなかったが「おひさまさんさんカフェ(地域茶話会)を年4回開催、認知症やグループホームへの理解を深めて頂いている。また家族会、介護の日の行事に地域の方々への参加をお声かけをし、更に理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、年間6回開催、様々な議題や問題を提案し、共に話し合い議論している。議事録は回覧し、更なるサービス向上につなげる事としている。会議をすることで、多くの意見や情報に耳を傾け、それを生かす努力をしている。	2か月に1回可能な限り参集して開催し、利用者の入居状況、様子等を報告し、また、その時々課題を議題とし、委員から意見や要望を伺っている。まとめた議事録は職員に回覧し次回にも活かしている。管理者は職員に会議の内容等を口頭で説明したり、連絡ノートで回覧し共有を図っている。毎年第1回の会議の際に、警察署と消防署の職員をゲストとして招請し、専門的な立場からのお話をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進協議会に市の担当者を招き、互いに情報交換に努めている。様々不明な点は窓口や電話等で相談し、意見を伺いながらスムーズな運営に努めている。	運営推進会議に委員として市の担当者が出席している事もあり、情報や不明な点などすぐ聞ける関係ができています。運営推進会議の報告書や要介護認定申請に関する事、外部評価の結果などは市に出向いたり郵送する等して、協力関係を保っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するテーマで内部研修を重ね、職員全員が正しく理解をするよう努めている。玄関の施錠は夜間のみとし、帰宅願望等で外へ出ようとされる利用者様にはその都度声掛けをし気分転換をして頂いている。夜間離床センサーはユニットに配置し2名に使用しているが、オフの時間を設け、安心・安全を心掛けている。	運営推進会議に兼ねて「身体拘束の廃止に関する委員会」を定期に開催し、拘束をしないケアに努めている。6か月毎に事故やヒヤリハットの発生状況を取りまとめ、事例と発生の多い時間帯、曜日などを分析し、グラフ上に表わしながら利用者の支援に役立てている。また、スピーチロックを含め、拘束に関する研修を月1回開催の職員全体会議の議題に盛り込み、理解と共有を図りながら廃止に努めている。転倒防止のため、家族承諾のもと離床センサーを使用している利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	コロナ禍で研修への参加も難しいが、荘内にて内部研修を行っている。入居者様に対する態度や声掛けの仕方は互いに注意し、職員全体会議やユニットカンファレンスにて改めて話し合い支援にあたっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる入居者様がいる、いないに関わらず、全体会議やユニットカンファレンス、リーダー会議などで学ぶ機会作りを心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族が納得して頂けるようしっかり説明に時間をかけ対応している。また、解約時にも経過の説明をしっかりと、ご理解頂けるよう努めている。改定時にも文書等送付、疑問時は面会や電話にて説明、ご理解頂けるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様本人、ご家族様の意見や要望等を面会時に伺ってみたり、投書箱を設け様々な意見を伺うようにしている。運営推進協議会や行事の際には民生委員等第三者のご意見、ご要望も取り入れながら従事している。	面会時や電話での家族とのやり取りの際に意見や要望を伺ったり、意見や要望を出しやすいよう担当職員がコメントを記入した「健康相談表」を家族に届けている。家族の意見・要望は職員間で話し合い、サービスの向上に繋がるようにしている。今はコロナ禍で見合わせているが、介護の日に合わせて家族会を開催し交流を深め、その中で意見や要望を聞く機会を設けていた。コロナ禍終息後は再開も考えている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやユニットカンファレンス、リーダー会議、全体会議等で出た日々の業務の中での意見や提案に対し、業務報告や幹部会などで話し合い、円滑な事業所運営となるよう心掛けている。	日常の業務の中や各ユニット会議、月1回の職員全体会議を通じ職員の意見等を把握し、業務内容の変更や柔軟な対応が可能ないように改善するなど、サービスの向上に役立てている。管理者による面談も不定期に実施し、資格取得についての意見や要望を汲み取る機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の職員の業務の中での努力や工夫、勤務状況を評価し、実績の向上が見られるように努めている。個々の勤務に伴う環境の整備に努め、やりがいと向上心を持って業務にあたるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の体調や勤務態度に変化が見られた時は面談にて状況確認、勤務の環境に配慮している。毎月の内部研修にて、仕事に対してのスキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて外部への研修や交流は限られるが、様々な考えを出し合いサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の身体の状況変化を把握し、不安や願いを伺い、希望に添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	細かく説明しながら施設見学をして頂き、質問や要望に対して的確な情報提供ができるよう心掛けている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況等を考慮し情報を共有している。ご本人、ご家族様の了解を得ながら支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりに対し思いやりと感謝の気持ちを忘れず、個性や能力を生かせるよう、日常生活での役割を持てるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には毎月利用者様の状況をお便りにして報告し、特変時にはすぐに連絡をとり、互いに協力し合えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にてご本人様の希望を叶えることは難しいが玄関先での面会や希望時には電話で会話ができるよう支援している。	基本外出禁止としていることから、戸外への外出を控えているが、馴染みの場所にはドライブに出掛け車窓から景色を見たりしている。ライン通話を登録した方が3名いたが、利用する方は少なかった。ガラス越しではあるが、玄関口での面会で家族との関係を継続している。月2回来訪する美容師と音楽療法士が馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様のそれぞれの性格や好み、身体状況から、談話やレク活動などしやすいように席順を配慮している。職員も状況により利用者様とコミュニケーションをはかり共有できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設へ入所されても相談等受け入れていることをお伝えしている。退居後の様子などご家族様との情報交換等を保てる関係作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の介助や関わり等から、ご本人様の思いをくみ取り個別ケアに取り組んでいる。24時間シート、モニタリング記録等を活用して、ミーティング等で情報を共有してケアに活用している。	日常の生活の中で利用者の要望や意見を伺い、言葉で意思を伝える事が難しい方には、仕草や様子から思いを推察している。また24時間シートを用い、モニタリングしながら意向の把握に努め、希望に添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様等から得た情報を参考に、ご本人様ともコミュニケーションをはかり、これまでの生活スタイルを取り入れたケアを行うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録を行い、状況変化等ある際には職員間で話し合い、一人ひとりのより良い暮らしを考慮しながら支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向を知り、日常生活の中で得られた情報をもとに、職員同士で意見交換、カンファレンスを行っている。介護計画を作成した後も状況の把握に努めミニカンファレンス等も行い、3ヵ月ごとの評価、見直しをユニット職員で行っている。	入居時にアセスメントを行い暫定のプランを作成している。その後、家族からの意見や情報を把握し、医師からの指導等を盛り込みながら、荘長、管理者、担当者による、毎月のユニットケアカンファレンスで3、4名の利用者のモニタリングを行い、その結果等を基に3ヵ月毎に介護計画の見直しを行なっている。家族には面会で来所した際などに説明し、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録のほか、日常での小さな変化もモニタリング記録を行うよう心掛けている。得られた結果や情報をもとに支援方法の見直し等を行い、様々な方法でケアに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、通院や訪問診療、訪問看護等必要な医療の形を継続するなど支援に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(今年度はコロナ禍で難しかったが)自治会長や民生委員の方、ボランティアの方々との交流を通じて、地域との関わりをもち、生き生きと過ごして頂けるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に添い、かかりつけ医への受診を支援している。また、ご家族の都合がつかない場合は職員同行での受診も支援している。	入居前からのかかりつけ医の利用者は9名、残りの9名は家族が付き添い出来ないなどの理由により、協力医療機関を受診している。家族が都合で受診の付き添いが出来ない場合には、職員が代わって対応している。家族が付き添う場合には、利用者の状況をメモにして主治医に伝え、家族から受診結果を伺っている。毎週火曜日には市医師会の訪問看護ステーションの看護師が訪れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	荘内の看護師に日頃の状態をはじめ変化や気づきを伝え、月4回(週1回)の訪問看護時に情報共有、相談、指示を仰げるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関への情報提供(日々の様子や変化)に努め、治療に専念し、早期退院が可能となるよう協力している。ご家族との情報共有にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意思を尊重し、医師や訪問看護師とも情報共有しながら十分に説明し理解して頂くよう努めている。必要に応じ他施設への紹介や申し込みについて提案、支援している。	看取り経験は過去に1回あるが、職員のメンタル面などを考慮し、それ以降は行っていない。入居時に看取り等に関する事業所の方針を説明し、了承を得ている。食事が摂れなくなったり、医療行為が継続して必要な状態になるような場合には、予め本人や家族と今後について意向等を伺いながら、事業所として出来る協力を惜しまずに支援に取り組んでいる。看取りに関し、現状では事業所として対応は困難としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急・事故発生時等の対応について研修を行っている。年々入居者の重度化も進んでおり、医療機関とも連携しつつ、職員間で状態の把握や対応法など周知徹底し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に職員と入居者全員で訓練を行い、スムーズな避難方法を確認しあっている。結果は地域の方々にも報告し理解や助言を頂いている。	年3回訓練を実施している。夜間想定火災訓練を2回、水害訓練を1回実施している。市のハザードマップでは建物の一部が浸水区域に該当していることから、安全な避難を考慮し、2階への垂直避難としている。今後の夜間想定訓練は、運営推進会議委員の協力を仰ぎながら、薄暮時の実施も視野に入れたいとしている。食糧等3日分を備蓄している。災害時の緊急招集に備え、荘長と管理者の3名が輪番で夜間に自宅待機する体制を整えている。	薄暮時の夜間想定訓練の実施に当たっては、運営推進会議委員や近隣の地域住民の協力を仰ぎながら、職員や利用者の動きなど、様々な課題を確認・分析し、災害への対応力を強化されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いや穏やかな口調で声掛けを行うよう努めている。入居者の性格や好み等も考慮し、接し方や話す話題に注意している。プライバシーに関わることや相談事をする際は1対1の空間を作って対応している。	常に笑顔で穏やかに丁寧な言葉遣いを心掛け、利用者一人一人に合わせた声掛けと、誇りや人格を損ねない対応に努めている。その上でストレスをコントロール出来ないでいる職員が介護の現場で認められることもあるので、接遇やアンガーマネジメント(6秒間我慢する)の内部研修を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が職員に話しかけやすい雰囲気づくりや、日々接する中で一人一人の希望や思いをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のできることやしたいことに合わせてレク活動等提供し楽しんで頂いている。ある程度決まった日常の流れはあるが、自由に休憩をとってもらいながら生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けや助言しつつご自身の着たい服を選んで頂いている。入居者様ごとの好みや似合う服装を考えつつ、ご家族様に衣類をご用意頂いている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の重度化が進み調理下準備まで行うことは難しい方が多い。その分、曜日ごとに分担表を作り状態に応じて食事片付け等を行って頂いている。食事は一人一人の好みにも配慮しメニューや食材を用意している。	同系列の“太陽荘”と合同で立てた献立を一週間交代で使用し、当番の職員が調理している。日々の生活の中で利用者の好みを聴き取り、献立に活かしている。中庭の畑で収穫したものを食材に利用したり、テレビを見て職員と利用者が一緒に作ったりしている。当番表を作り、利用者は食器の洗い、拭き、片づけなどのお手伝いをしている。敬老会の懐石弁当、花見弁当、年越し蕎麦、おせち、ひな祭りのちらし寿司などを提供し、楽しんでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとの食事の摂取量・水分量を記録している。不足気味の方には好みの飲料を提供したり、ご家族様の協力の下栄養補助食品を活用している。主食を食べやすい大きさのおにぎりにしたり、ワンプレートの形での提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り、ご自身の力で口腔ケアをして頂き、義歯の洗浄等難しいところは介助している。清潔な用具でケアして頂けるよう、週に一度は歯ブラシ・コップの消毒を行い、様子を見て新しい物に取り替えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々の排泄状況を記録している。その日の水分摂取状況や日々の傾向から失禁を減らせるよう声掛けを行っている。失禁が減っている利用者様に対してはパッドを小さめのもにに変更している。	排泄パターンに応じ、定期的な声掛けとトイレ誘導を行なっている。リハビリパンツとパット併用の利用者が多く、布パンツからリハビリパンツへの移行は慎重に行っている。リハビリパンツとパット使用をしていた利用者がリハビリパンツのみになるなど、その人に合わせた支援を行なっている。転倒防止のため、ポータブルトイレは家族の了承のもと、2ユニットで4名が使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数や傾向を記録し、乳製品や水分摂取、腹部マッサージや適度な運動を心がけている。必要に応じて医師へ相談、下剤を処方してもらうこともある。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合った支援をしている	出来る限り希望に添えるよう、タイミングを見て声掛け、入浴して頂いている。1対1の場となるためゆっくりと会話したり、悩みを聞いたり、リラックスできるように支援している。	入浴は午後の時間帯に、週2、3回を基本としている。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず本人のペースに合わせたり、コロナ禍以前は家族の協力をいただきながら入浴を促している。同性介助を希望する人にはその意向を尊重している。入浴は、利用者と職員のコミュニケーションの機会になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠が見られる方には、夜の睡眠に支障のない程度で臥床して頂いている。快適に過ごして頂けるよう状況に応じて夏場は扇風機、冬場は湯たんぽや電気毛布等も使用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐため、内服前には名前・日付・服薬タイミングについて職員2名で確認を行っている。内服直前には利用者の方で再度日付・名前の確認を行っている。また、薬に変更があった際には申し送りをし、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物が得意な方には雑巾づくりや刺し子、料理が得意だった方には野菜の皮むきといった手伝いをして頂き、共生・協働に努めている。また、季節に合わせた掲示物作成の際には多くの利用者様に手伝って頂き、完成させる楽しみを持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出も難しいが天気や入居者様の体調が良い時、またときに不穏時などには気分転換を兼ねてドライブや荘周辺の散歩にお連れしている。状況に応じてご家族様にも相談しながら、一人一人の希望に添えるよう支援している。	コロナ禍のため、以前のように外出支援は出来ていないが、ドライブを兼ね、車窓から景色を見るなどして、気分転換を図っている。天気の良い日には、事業所玄関前に椅子を出し、日向ぼっこを楽しんだり、畑で菜園を作り、収穫を楽しみながら、外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様からお金に対してのご希望があった際は、ご家族様に状況をお伝えし、ご理解、ご協力頂いている。可能な限りご希望に添えるよう支援に努め、トラブルのないよう配慮している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 都南太陽荘 秋桜ホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話の訴え時は、ご家族様に相談と了承頂き、必要時は電話対応している。お手紙についてもご本人とご家族様へお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	荘内(玄関、居室入り口、ホール内)の飾りつけは装飾係を中心に、入居者様と展示物の作成や飾り付けを行っている。居室入口にはお名前を分かりやすく示している。ごみ箱もつまずきによる転倒に配慮しながら配置している。	事務室と調理室を間に各ユニットのホールがそれぞれ左右にあり、利用者は自分の席に座ったり、テレビの体操に合わせて体操するなど、思い思いに過ごしている。ホールの天井にある天窓からの自然光を取り入れ、夏は葦簀やカーテンで日除けをし、エアコンも使用しながら適温を保っている。冬は床暖とパネルヒーターや加湿器で室温を調節している。壁面には職員と利用者が一緒に作った貼り絵や季節を感じさせる折り紙作品が飾られ、居心地の良い環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が居室でリラックスして過ごして頂けるように心がけ、ホール内でも状況に応じて自由に席移動して過ごして頂いている。1日の大半をホールで過ごされるからこそ、落ち着いて生活できる空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の持ち物には名前を記入し、居室内にはご自宅で使い馴染みのある物を飾ったり、使用して頂いている。	居室はベッド、クローゼット、棚が備え付けられ、冬はパネルヒーターで暖を取り、夏はホールのエアコンだけなので、扇風機を持ち込み、居室内の温度調節を行なっている。カレンダーやタンス、位牌、テレビ、孫の写真を持ち込んだり、自分の作ったものを飾るなど、居心地よく過ごせる居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体状態や、できる能力に合わせた福祉用具を活用している。ホール内も高齢者の方にも分かりやすく「お便所」等と示し、大きめの文字で表している。荘内の環境についても安心して暮らせるように定期的に点検と清潔保持に努めている。		